



第6次 羽咋市総合計画

2021-2030

令和3年度 ▶ 令和12年度

概要版

総合計画策定の背景と目的

羽咋市総合計画は、地域づくりの最上位計画としてまちづくりの方向性を明らかにするもので、行政運営の最も基本となる計画です。

私たち羽咋市民は、人口減少社会の到来という大きな時代の転換期を迎える今、「変革」を伴う「ひと・まちづくり」の節目の時と捉えて、これまでの「ひと・まちづくり」をしっかりと振り返り、時代の変化を見極め、新たな視点を持たなければなりません。

さらに、まちの機能や魅力、暮らしの質を高めながら、将来にわたって「住み続けたい」と思える持続可能な「ひと・まちづくり」を目指し、積極的に取り組んでいくことが求められます。

よって、令和3年度から令和12年度までの10年間で、羽咋市をこんなまちにしたいという「ひと・まちづくり」のストーリーを明確にするために、新たに第6次総合計画を策定します。

総合計画の構成および目標年次

基本構想

- 基本構想は、羽咋市の将来都市像や基本目標、目標人口などを明確にし、それらを実現するための「ひと・まちづくり」の目標を示します。

基本構想の対象とする期間は、令和3年度（2021年度）から令和12年度（2030年度）までの10年間とします。

基本計画

- 基本計画は、基本構想で示した「ひと・まちづくり」の目標を実現するための施策の方向性を具体化し、各分野別の施策を体系的に示します。

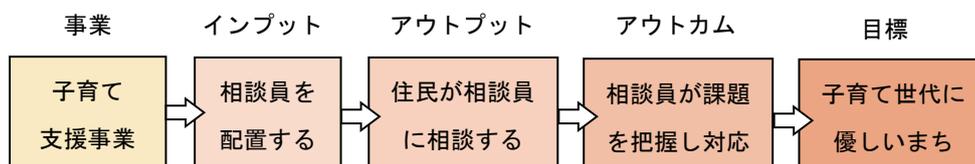
基本計画の対象とする期間は、基本構想と同様に令和3年度（2021年度）から令和12年度（2030年度）までの10年間としますが、社会情勢の変化などを加味し、中間の令和8年度（2026年度）に、「基本計画」の見直しを行うこととします。

総合計画の推進

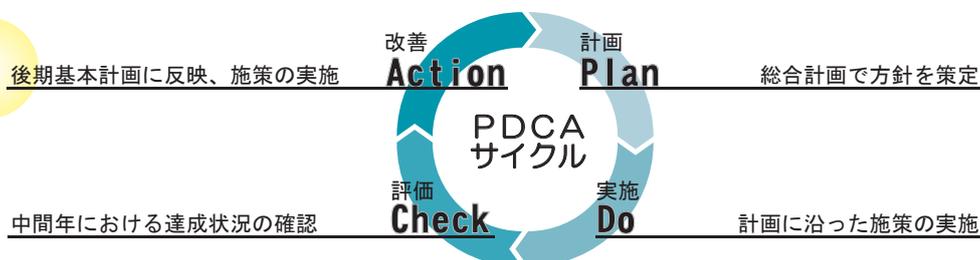
総合計画の推進に際しては、羽咋市を取り巻く社会情勢の変化などに対応するため、市民が主体となって取り組む活動に対し、新たな価値観を見出しながら、行政が積極的に支援をする「共創」システムを体系化していくものとします。

持続可能な「ひと・まちづくり」を具現化するために、PDCAサイクルの考え方に基づき、効果・検証を実行します。基本計画や実施計画に掲げる目標は、原則、行政活動そのものの結果（アウトプット）として住民にもたらされた便益（アウトカム）に関する数値目標も設定します。

【目標のインプット・アウトプットのイメージ例】



【PDCAサイクルの考え方】



基本理念

羽咋市市民憲章は、当時の青年・女性団体の有志が休日や夜間を利用して、無作為に選んだ千人の市民に面接し、「こんな市民になろう」「こんなまちをつくろう」という希望や意見を聞いて、「市民共同のちかい」としてとりまとめたものです。第6次羽咋市総合計画も、この市民憲章を基本理念とします。

羽咋市市民憲章

やさしい人情の能登に住み 未来にひろがる日本海のように
たくましく生きようとめざす 羽咋市民のちかいです

私たちはみんなで	歴史と伝統を重んじ	文化豊かな郷土を築きます
私たちはみんなで	恵まれた自然を守り育て	環境の美しい郷土を築きます
私たちはみんなで	社会を正しくみつめ	責任を果たし助けあう郷土を築きます
私たちはみんなで	家庭を大切に	仕事に励み活気ある郷土を築きます
私たちはみんなで	からだを鍛え教養を高め	安全で平和な郷土を築きます

<昭和48年(1973年)10月30日制定>

将来都市像

① はぐくもう #はくいびと

② くらしてほっと きてほっと

③ いざ!チャレンジ #HOT羽咋

①頭文字を「は・く・い」としました。

②子どもから高齢者までが、容易に理解できるように「ひらがな表記」を多く用いました。

③まちづくりの基本は、「ひとづくり」

羽咋市のことを想い、羽咋市の発展のために主体的・積極的に活動し、新しい羽咋市を創造しようというHOT(熱い)な志を持った人を「はくいびと」と言い表します。

これからのまちづくりには、この「はくいびと」を多く育てることが最重要であると考えます。そして、いろいろな分野でチャレンジする「はくいびと」を応援し続けることで、「暮らしても、訪れても」「ほっと」でき、すべての人々が幸せになることができる持続可能なまちを目指します。

④「いざ!チャレンジ」という言葉には、多くのチャレンジしようとする「はくいびと」を応援するとともに、新たな時代を切り拓いていこうとする都市のイメージを表現しています。

⑤「HOT羽咋」には、熱くみなぎる活気ある都市を目指そうとする意志を表します。

⑥「#」(ハッシュタグ)を配することにより、ソーシャルメディアなどを活用する若い世代などにも、広く共有していこうとするものです。

基本目標 1：歴史をつなぎ、文化を育む ひと・まちづくり (P6)

①歴史と文化の保存と継承、活用

②文化を育む環境づくり

基本目標 2：美しい自然と環境を守り伝える ひと・まちづくり (P6)

①自然と共生する生活環境の保全

②循環を基調とした持続可能な社会形成

③緑豊かな環境づくり

④安全で信頼される上水道の推進

⑤適正で効率的な下水道の推進

基本目標 3：希望を持ち、助けあい、活躍できる ひと・まちづくり (P7)

①安心して子育てできる環境づくり

②超高齢社会への対応充実

③障がいのある人への支援

④全世代活躍のまちづくりの推進

⑤社会保障制度の維持・充実

⑥地域医療体制の維持・充実

⑦行政サービスの向上と効率的な行財政運営の推進

基本目標 4：多彩な交流と賑わいあふれる ひと・まちづくり (P8)

①農林水産業の振興

②商工業の振興

③まちなかの都市機能の充実による賑わい創出

④雇用の創出と働きやすい環境づくり

⑤多彩な交流の推進

⑥関係・移住・定住人口の拡大

基本目標 5：学びと安心を高め合う ひと・まちづくり (P9)

①学校教育の充実

②次世代を担う青少年の育成

③教養や生きがい、健康維持の土台づくり

④消防力の充実と予防措置

⑤地域防災力の強化

⑥交通安全と防犯意識の向上

⑦快適な道路網の整備と管理

⑧良質な住生活の推進

基本目標 1：歴史をつなぎ、文化を育む ひと・まちづくり

市民一人ひとりが、本市の恵まれた文化財を再認識できる機会をつくとともに、先人から連綿と受け継がれてきた文化や芸能などを継承していきます。

また、「郷土愛」を育むという視点からも、価値ある資源をわかりやすく学習・体感できる拠点や事業を充実させ、子どもから高齢者までが学習できるよう、資料の収集、整理、提供を継続的に行っていきます。

市内に点在する文化財の魅力を、多くの来訪者にも知ってもらえるような回遊コースの提案や催事の開催など、観光資源としての魅力創造にも努め、外国の方との相互理解を図るための取り組みも積極的に行います。

基本目標 2：美しい自然と環境を守り伝える ひと・まちづくり

市民一人ひとりが、世界農業遺産「能登の里山里海」という美しい自然環境を再認識するとともに、地球規模での環境保全の意識をもち、取り組んでいくことを積極的に支援していきます。

特に、ごみの減量やCO₂削減などに対し、個人個人がいつでもどこでも実践できるような持続可能な取り組みを積極的に支援・推進すると同時に、景観の保全にも配慮しながら、自然と調和のとれたまちづくりを目指し実践する人材を育てます。

また、市民生活に密接に関係する清らかな水環境を「安全」・「強靱」・「持続」を基本に、提供し続けるための体制づくりを進めます。

基本目標 3：希望を持ち、助けあい、活躍できる ひと・まちづくり

希望を持ち、挑戦しようとする市民一人ひとりを支援していきます。

人口減少や少子高齢化社会の進行などにより、経済活動の停滞だけではなく、地域コミュニティにおける担い手不足や地域行事の継承など、各地域活動に大きな影響が出てきています。そのため、地域社会におけるすべての世代が助け合い、誰もが活躍できるまちづくりを推進していく必要があります。

また、多様な働き方や生きがいがづくりなど、互いに尊重し合い、元気で豊かな地域社会を形成し、夢や希望を持つことができる社会の実現を目指す必要があります。

さらに、新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ、「新しい生活様式」を確立し、老若男女、障がいの有無などを問わず、交流や協働の機会を促すとともに、地域医療や社会保障制度の維持・充実など、質の高い行政サービスを提供していきます。

基本目標 4：多彩な交流と賑わいあふれる ひと・まちづくり

市民一人ひとりが、本市の地域資源の独自性や優位性を再認識し、多彩な交流と賑わいあふれる都市を築いていきます。

特に、歴史的建造物や自然景観、農林水産物などの地域資源を活用した魅力ある商品開発やブランド化、販路拡大に取り組むとともに、本市の魅力を発信する人材を育成し、全国の羽咋ファンを増やしていきます。

また、まちなかの賑わい創出の起爆剤となる羽咋駅周辺整備を基点として、都市機能を高めるとともに、公共交通ネットワークを最適化することにより、周辺地域との往来を活性化し、賑わいを創出します。

さらに、働き方改革の考えを踏まえながら、ニーズにあった就労形態を構築するとともに、企業誘致による雇用の創出や移住政策にも努め、地域全体の活性化を図ります。

基本目標 5：学びと安心を高め合う ひと・まちづくり

本市の未来を切り拓く人材を育むため、学校教育の充実と次世代を担う青少年の育成を重点的に取り組みます。また、子どもから高齢者、障がいのある人まで、市民一人ひとりが健康で心豊かな生活を送ることができるよう、生涯学習活動や文化活動を推進するほか、スポーツや健康教室などを通じた健康増進および健康寿命の延伸に努めます。

さらに、地域が一丸となって消防、防災、交通安全、防犯体制を強化することにより、安全で平和なひと・まちづくりを目指します。

地域防災や活力ある地域づくりを目指すうえでも、安全で快適な道路や橋などの公共インフラを適切に管理、整備するとともに、広域幹線道路として整備が進められている国道 159 号羽咋道路や国道 415 号羽咋バイパスの早期供用開始を目指し、国・県へ積極的に要望を行っていきます。

また、良質な住生活を推進するため、住宅や建築物の耐震化、長寿命化、省エネルギー化を推進するほか、移住・定住を促進するため、若者や子育て世代向けの住宅環境整備を進めます。

【5つの基本目標を支える仕組み】

～共創による「ひと・まちづくり」と新技術による市民サービスの向上～

「まちづくり基本条例」（平成 14 年制定）により、市民参加を基本とした行政運営をまちづくりの原則として定め、市民参画によるまちづくりを進めています。

今回の将来都市像に掲げたように、まちづくりの基本はひとづくりであり、いろいろな分野のいろいろな場面で、主体的、積極的にチャレンジしようとする市民を支援し、共創する社会を実現します。

また、人口減少社会に適応するため、AI（人工知能）や IoT（モノのインターネット）などの活用によるデジタル化を進め、市民サービスの向上や行政事務の高効率化を図ります。

そして、これからの地域を支える職員の人材育成と行政運営の最適化を図り、質の高いサービスの提供を進めるとともに、周辺自治体等との連携などにより地域の維持・活性化を図ります。

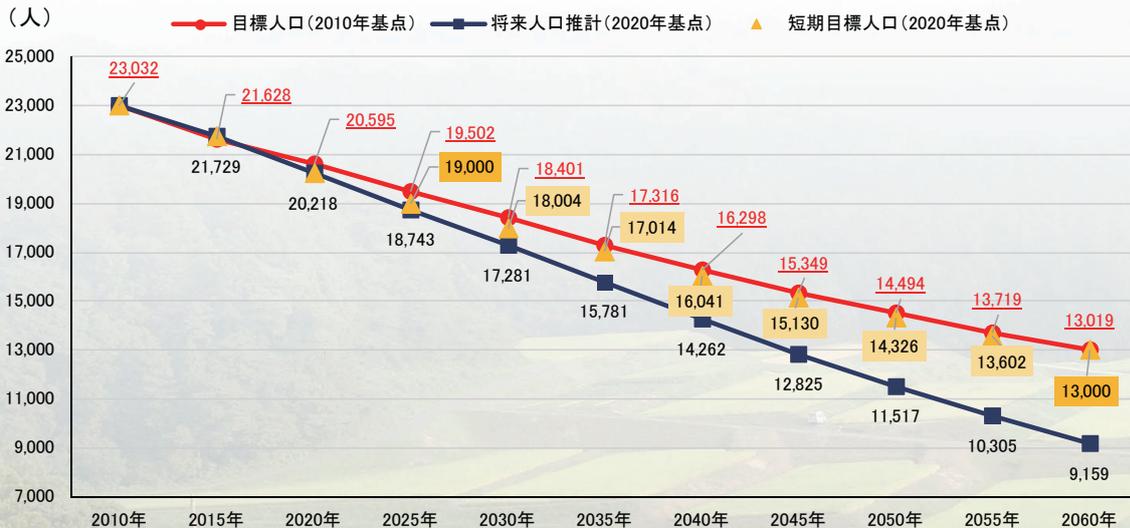
将来人口と目標人口

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の日本の地域別将来推計人口（2018 年推計）によれば、第 6 次羽咋市総合計画の目標年次である令和 12 年（2030 年）における羽咋市の人口は、約 17,300 人まで減少する見込みです。

人口減少は、将来のまちづくりに多大な影響を及ぼす可能性があります。

このため、出生率を改善させるとともに、人口流出を抑制し、定住人口を着実に増やすための重点的かつ戦略的な各施策を展開することを条件に、推計した政策的人口約 700 人を上乗せし、令和 12 年（2030 年）における羽咋市の目標人口を 18,000 人と設定します（第 2 期がんばる羽咋創生総合戦略から転載）。

【羽咋市における将来目標人口】



※目標人口（2010 年基点）：第 1 期がんばる羽咋創生総合戦略策定時に定めた人口推移。
将来人口推計（2020 年基点）：近年の本市の人口推移と、2015 年（平成 27 年）国勢調査を基準として社人研が推計した予測値に基づく人口推移。
短期目標人口（2020 年基点）：第 2 期がんばる羽咋創生総合戦略で目指す人口推移。

将来都市構造

将来都市構造は、本市の都市的魅力を高め都市の骨格を形成し、物流や交流の中心となるとともに、都市の発展方向を明示するものであり、市内を縦横断する道路ネットワーク整備状況や今後の整備計画、都市化動向などを勘案し、将来の都市構造として、自然・地形的特性をもとに都市構造の面的広がり成す「ゾーン」、現況の土地利用をもとに将来ニーズを見込んで集積を図る「拠点」、広域的な交流促進や拠点の連絡を強化し、都市の骨格を構成する「軸」を設定しています。

ゾーンの方針

市街地ゾーン

都市機能の充実と魅力ある都市空間や快適で安心して暮らせる居住空間を創出するとともに、周辺の農地などと調和したコンパクトな市街地の形成を図ります。

田園・集落ゾーン

優良農地の保全を図るとともに、これら農地と調和した集落環境の維持を図ります。

自然環境ゾーン

貴重な自然環境の保全を図るとともに、自然を生かした憩いの場の創出を図ります。

拠点の方針

中心都市拠点

商店街の活性化や賑わいと魅力ある都市空間を創出し、まちなか居住の促進を図る拠点です。

歴史・文化拠点

歴史・文化資源を保全・有効活用しながら、市民や観光客が本市の歴史と文化を学び・継承できる拠点です。

産業・交流拠点

交通の利便性を生かし、周辺環境と調和した商業施設などの集積を図るとともに、市民などが交流する場の形成を図る拠点です。

工業拠点

交通の利便性を生かし、工業施設の集積、新たな企業の誘致、既存企業の拡大などにより、雇用の創出を図る拠点です。

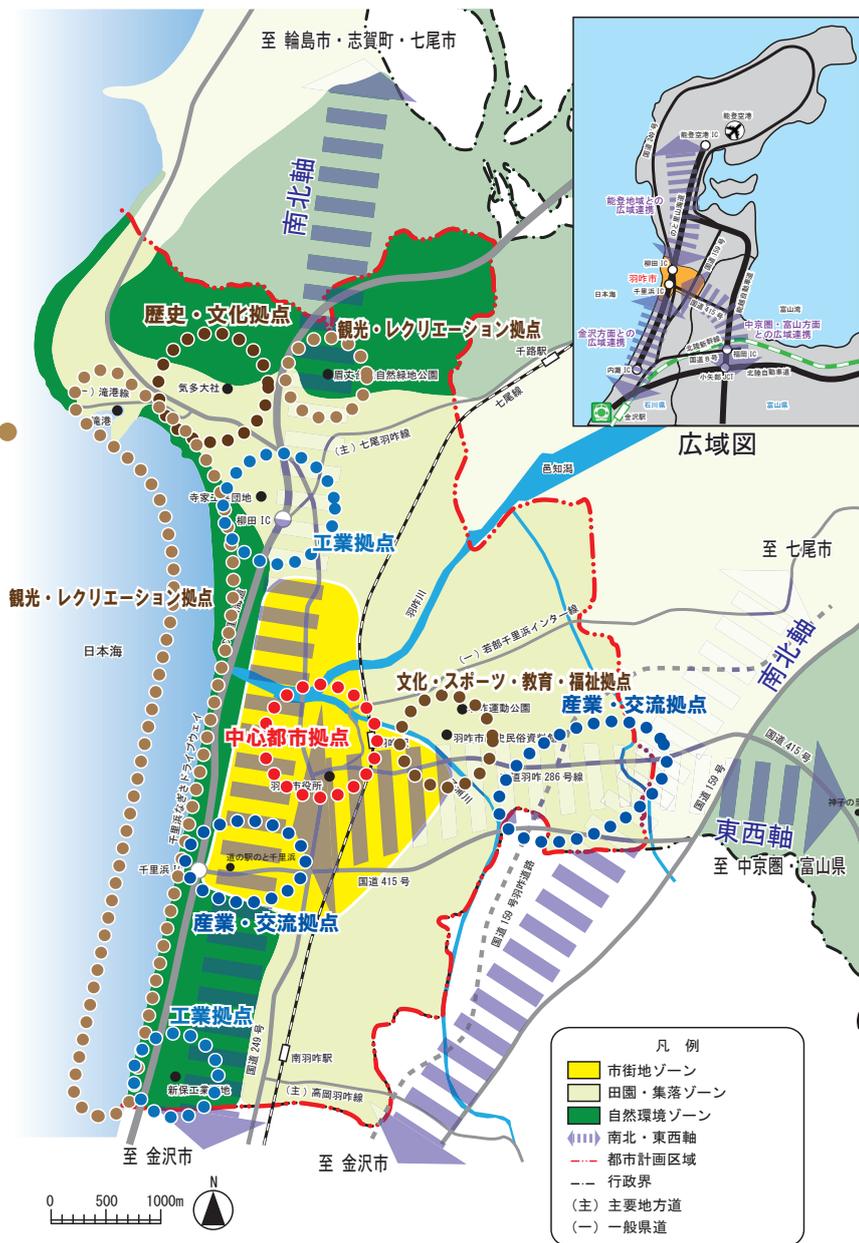
観光・レクリエーション拠点

自然資源を有効活用しながら、市民や観光客が自然と親しむことができる拠点です。

文化・スポーツ・教育・福祉拠点

文化やスポーツを通して市民などが健康推進および交流する場として、災害時には避難場所として、施設機能の充実を図る拠点です。

将来都市構造図



軸の方針

南北軸

金沢方面と能登地域の連絡機能を強化し、広域的な交流を促進するとともに、本市の中心都市拠点や工業拠点、観光・レクリエーション拠点、歴史・文化拠点の連絡強化を図ります。

また、本市の活力の維持・創出のための重要な軸として、商業や流通機能などの強化を図ります。

東西軸

隣接する富山県や中京圏との広域的な交流を促進するとともに、本市の中心都市拠点や各拠点の連絡強化や、地域振興および観光情報等の発信拠点と機能、連携させることにより、市内への回遊誘導を図ります。

また、本市の活力を創出する重要な軸として、沿道土地利用のさらなる充実を図ります。

1 歴史と文化の保存と継承、活用

文化財の保護・管理に努めます

文化財の一体的な保存と活用の推進
指定文化財の保護・管理

郷土の歴史と文化を次世代へ継承します

郷土資料の調査・研究と継承の推進

歴史・文化を活用した市民の学習・文化活動を支援します

歴史民俗資料館を活用した博物館教育の推進

文化財を活用した観光資源の掘り起こしに努めます

文化財を生かしたまちづくり

2 文化を育む環境づくり

文化を支える人材育成と支援に努めます

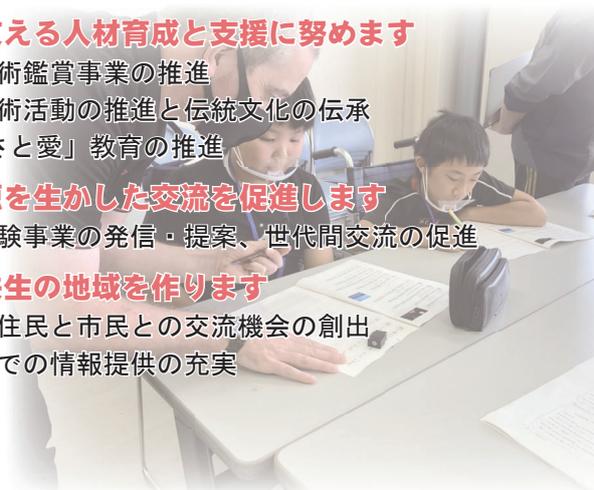
文化芸術鑑賞事業の推進
文化芸術活動の推進と伝統文化の伝承
「ふるさと愛」教育の推進

文化資源を生かした交流を促進します

文化体験事業の発信・提案、世代間交流の促進

多文化共生の地域を作ります

外国人住民と市民との交流機会の創出
多言語での情報提供の充実



1 自然と共生する生活環境の保全

自然環境の保全を推進します

自然環境保全の意識向上
自然環境と共生する環境保全対策
環境と調和する景観の保全

生活環境の保全を図ります

生活環境の監視と指導の充実
不法投棄防止対策の強化 / 衛生的な生活環境の創造

2 循環を基調とした持続可能な社会形成

循環型社会をつくりま

廃棄物発生量の抑制 / 廃棄物の再使用、再利用の推進
効率的で安定したごみ処理体制の構築

脱炭素型社会を目指します

エコライフの推進
再生可能エネルギーの利活用の推進

3 緑豊かな環境づくり

魅力ある公園の整備を進めます

公園・緑地空間の整備、管理
安心して利用できる施設の充実 / 公園機能の活用

緑の保全と緑化を推進します

緑豊かな環境づくり / 公共空間の緑化推進
住民活動の促進

4 安全で信頼される上水道の推進

<安全>安心して飲める水道を目指します

安全な水質の確保 / 安定的な水源の確保

<強靱>危機管理に対応できる水道を目指します

配水施設の整備 / 危機管理体制の強化

<持続>市民から信頼される水道を目指します

適切な維持管理の推進 / 事業の効率化

5 適正で効率的な下水道の推進

下水道の効率的な整備を推進します

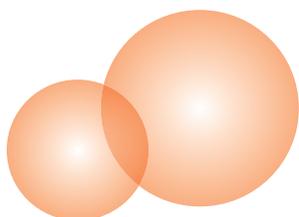
下水道の整備

水洗化を促進します

下水道の接続促進

安定した事業経営を目指します

適切な維持管理の推進 / 事業の効率化



1 安心して子育てできる環境づくり

次世代育成支援施策を拡充します

縁結び事業の推進 / 不妊治療への支援
産前産後の母子への支援充実
子育て世代包括支援センターの相談充実

仕事と子育ての両立を支援します

子育て世代に対する経済的な支援の充実
保育サービスの充実 / ひとり親家庭への支援
仕事と子育ての両立支援 / 児童福祉施設の整備

地域で育む子育てを推進します

子育て支援サービスの情報提供と相談充実
子育て世代ネットワークづくり / 児童虐待防止対策

2 超高齢社会への対応充実

生きがいがづくりと社会参加を促進します

生きがいがづくりと社会参加の促進

健康づくりや介護予防を総合的に推進します

健康づくりの推進 / 介護予防の推進

介護支援体制の充実に努めます

在宅福祉の充実 / 医療と介護の連携推進
認知症施策の推進

地域の支えあい活動を推進します

地域見守りネットワークの構築
地域の支えあい活動の支援・体制づくり

3 障がいのある人への支援

ともに支え合う共生社会をつくります

障がいのある人への理解促進
手話などコミュニケーション手段の理解と普及

安心して暮らせるまちづくりを推進します

生活環境の整備 / 各種福祉サービスの充実
地域生活の支援体制

自立のための支援体制を充実させます

相談体制の充実 / 自立への支援

4 全世代活躍のまちづくりの推進

生涯活躍できるまちづくりを推進します

地域活動、市民活動団体への支援と連携
共創による仕組みづくり / 人材育成の推進

男女がともに活躍できるまちづくりを推進します

仕事と生活の両立支援
人権尊重の意識づくりと暴力の根絶

シニア世代が活躍できるまちづくりを推進します

シニア世代が活躍できる仕組みづくり

交流拠点施設の整備を推進します

交流拠点の充実、整備
人と人をつなげる仕掛けの構築 / 交流事業の推進

5 社会保障制度の維持・充実

健康保険制度を適切に運営します

国民健康保険事業の運営安定化 / 医療費の適正化
石川県後期高齢者医療広域連合との安定的な連携
高齢者保健事業の拡充

医療費助成制度を充実させます

助成対象の拡充 / 手続きの効率化

生活困窮者を支援します

相談体制の充実 / 自立支援の推進

6 地域医療体制の維持・充実

公立羽咋病院の設備などの充実に努めます

施設の整備 / 医療機器の充実

医師、薬剤師などの人材確保に努めます

医師・薬剤師などの確保

安心して医療を受けられる体制づくりを進めます

産科・小児科の医療体制確保
外来・入院患者の口腔機能向上（公立羽咋病院）
地域在宅医療体制の充実
救急・災害時医療体制の整備 / 新型感染症の対策強化

7 行政サービスの向上と効率的な行財政運営の推進

財政健全化の推進に努めます

自主財源の確保、拡充 / 経営的視点に立った財政運営の推進

市民視点の行政サービスの向上に努めます

市民サービスの向上 / 効率的かつ効果的な行財政運営の推進

効率的な行政運営の推進に努めます

広域連携による効率化 / 行政組織機構の見直し
職員定員適正化の推進 / 職員の人材育成

地域住民との情報共有化を図ります

広聴活動の充実 / 市政情報の発信と個人情報保護の推進



1 農林水産業の振興

特色を生かした農林水産業を推進します

農林水産物の生産支援

地域資源の基盤確立と安定経営を図ります

持続可能な生産基盤の構築 / 経営環境の改善

2 商工業の振興

中小企業の経営基盤安定・強化に努めます

中小企業の経営基盤の強化

特産品の開発・販売促進・地域内消費の推進

賑わいある商店街づくりに努めます

中心商店街活性化と空き店舗対策の推進

起業家の育成および事業承継の促進

企業立地の促進に努めます

企業立地の促進 / 立地環境の整備と推進体制の構築

3 まちなかの都市機能の充実による賑わい創出

コンパクトシティの推進に努めます

都市機能の整備・拡充

まちなかの居住環境の整備・向上

郊外集落の居住環境の整備・向上

羽咋駅周辺整備の推進に努めます

羽咋駅周辺賑わい交流拠点の整備

都市計画道路川原町線の整備 / 二級河川長者川の整備

新たな時代に対応した地域公共交通の確保に努めます

多様なニーズに対応した地域公共交通の確保

4 雇用の創出と働きやすい環境づくり

雇用の創出とマッチングを推進します

雇用の創出とマッチングの推進

シルバー人材センターの充実

誰もが働きやすい環境づくりに努めます

働きやすい環境づくりの推進

多様なニーズに対応した就労環境の整備

5 多彩な交流の推進

交流の拡大を推進します

地域の魅力を地域で共有

多様なニーズへの積極的なアプローチ

交通新時代への対応を進めます

交通新時代に向けた対応 / 広域観光の推進

継続した情報発信に取り組みます

魅力ある交流基盤づくり

情報発信により地域資源の活用を拡大

6 関係・移住・定住人口の拡大

移住への総合的支援および定住の促進に努めます

移住希望者への情報提供、支援

移住希望者を対象とした住環境の整備

移住から定住につながる支援、アフターフォロー

本市ならではの仕事と移住者とのマッチング支援

関係人口の創出を図ります

海外や都市圏などとの交流促進と情報発信

特産品を生かした羽咋ファンの拡大

首都圏などの人材による交流と共創



1 学校教育の充実

教育環境の整備を推進します

小中学校施設の整備・検討 / 部活動の維持・連携
学習環境整備の拡充

生きる力を育み、信頼される学校づくりに取り組みます

「教育活性化プラン事業」の推進による信頼される学校づくり
「3あい（学びあい・鍛えあい・育ちあい）」の実践による生きる力の育成
学校・家庭・地域の連携

英語教育をさらに推進します

英語教育の推進

学校給食の充実に努めます

安全な学校給食の提供

3 教養や生きがい、健康維持の土台づくり

生涯学習・文化活動の充実に努めます

公民館活動の充実 / 文化芸術活動の推進

生涯・競技スポーツの推進と健康づくりを支援します

生涯スポーツの推進 / 競技スポーツの推進
健康寿命の延伸

施設の整備と維持管理に努めます

施設の整備・充実 / 適正な維持管理

5 地域防災力の強化

地域による防災体制づくりを推進します

自主防災組織の強化
要配慮者利用施設の避難体制の強化
防災拠点施設の機能充実と災害備蓄品の充足
災害に強いまちづくりの推進

防災士の育成とスキルアップを図ります

地域リーダーとなって活動できる防災士の育成

情報伝達と避難行動の強化を図ります

確実な情報伝達手段の確立
国内外の観光客に対する防災情報の伝達

7 快適な道路網の整備と管理

地域の活力を高めるみちづくりを進めます

広域幹線道路の整備 / 地域幹線道路の整備
交流促進施設の整備

市民生活を支えるみちづくりを進めます

生活幹線道路の整備 / 生活道路の機能向上

次世代へ引き継ぐ維持管理を進めます

橋りょうおよび道路施設の長寿命化の推進
適切な維持管理の推進

2 次世代を担う青少年の育成

青少年健全育成活動を推進します

青少年健全育成活動の推進

体験学習を推進します

羽咋の文化、自然を生かした体験活動

高等学校などとの連携による人材育成を推進します

高等学校生などが地域社会で主体的に能力を発揮
できるような環境づくりの構築

家庭教育支援事業を推進します

家庭の教育力の向上

4 消防力の充実と予防措置

火災予防を推進します

火災予防活動の推進

消防力の整備・充実を図ります

消防施設および消防水利の整備と充実
災害対応力強化

消防団組織の充実と強化を図ります

消防団員の確保
安全装備品、活動資器材の更新および充足
団員の防災知識向上や災害対応力の強化

6 交通安全と防犯意識の向上

交通安全対策を推進します

交通安全意識の高揚 / 交通安全施設の整備
地域公共交通の最適化

防犯の見守りと防犯意識の高揚に努めます

地域防犯体制の充実 / 暴力の排除や青少年非行の防止
特殊詐欺被害の防止

8 良質な住生活の推進

快適な住環境の推進に努めます

居住環境の向上 / 分譲地整備の推進

市営住宅基本プランに基づいた整備を行います

市営住宅の整備 / 官民連携の推進

住生活支援策の充実に努めます

住生活への支援



石川県
羽咋市
Hakui City

令和3年3月策定